LL-NRE4055

Maternal CNS Complications during Gestation : Role of Brain CT and MR Imaging Studies

（妊娠に伴う母体の中枢神経系合併症：脳 CT・MRI の役割）

浮洲龍太郎　昭和大学横浜市北部病院放射線科

胎児，新生児の中枢神経障害と，その早期診断がきわめて重要なことは論を待たず，画像所見に注目した優れた論文や総説もたくさんあります。では，母体についてはどうでしょうか？これはあくまで私見ですが，「画像診断の有用性については，いまだ十分に語られていない」と思っていました。

私の亜専門領域は頭頸部なので，脳のCT・MRIが中心の発表は畑違いととられるかもしれません。しかし，提示症例の中で最も古いものは，「鎖骨から上のどこか」にばく然と興味があったころに出張していた病院で経験したものです。その後も，日常業務の中で関連する症例が蓄積され，postpartum cerebral angiopathy（PCA）の経験をきっかけに，テーマを絞って勉強してみようと思い，今回の発表に至りました。

提示症例は，posterior reversible encephalopathy syndrome（PRES），hemolysis, elevated liver enzymes, and low platelets syndrome（HELLP症候群），硬膜静脈洞血栓症，Sheehan症候群，下垂体卒中，重症妊娠悪阻に合併したWernicke脳症，osmotic demyelination syndrome（浸透圧性脱髄症候群），PCA，妊娠に伴い急速増大した髄膜腫などで，各症例の病歴，脳CT・MRIにおける早期診断のポイント，および病態を中心にまとめてみました。

重症妊娠悪阻に合併した浸透圧性脱髄症候群だけは手元になく困っていたところ，他院で精力的に活躍されている先生が快く症例を提供してくださいました。どこにお名前をお入れしようかご相談したところ，「私はテーマにかなった症例を持っていただけです。共著者はもとより謝辞などもなしにしていただけるなら喜んでお預けします」とのお返事をいただきました。「謙虚にして驕らず」……まさに心が洗われる思いでした。今後はこの発表を何とか文章に残し，貴重な症例を提供してくださった先生，Cum Laudeに選んでくださったRSNA 2011に対し，私なりの感謝の気持ちを示すことができればこの上なく幸いです。

RSNA

Cum Laude

Citation to

R. Ukisu; N. Sunaoshi; M. Tanisaka; K. Matsunari; S. Yagi; T. Kushihashi

In recognition of the excellence of your

Education Exhibit

LL-NRE4055: Maternal CNS Complications during Gestation: Role of Brain CT and MR Imaging Studies

presented at the

97th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America

November 27–December 2, 2011

Burton P. Drayer, MD
President

George S. Bisset III, MD
President-elect and Secretary-Treasurer